

東予総合支所

〒799-1394 周布349番地1 TEL0898-64-2700 FAX0898-65-4363

「エッ！ 川をくぐるトンネル？」

《大明神川トンネル》



「えっ！ 川の下をくぐるトンネル？」

そうなんです。JR予讃線壬生川～伊予三芳駅間（高田地区と三芳地区との境）にある「大明神川トンネル」。このトンネルが川の下をくぐる全

長約65mの全国でも珍しい鉄道トンネルなのです。

大正10年から壬生川～桜井間の鉄道敷設工事が始められ、この区間にある大明神川は周囲の土地よりも高い位置に川底があるため、この川を越えるトンネル工事は非常に

困難なものになりました。まず、大明神川を南北に2分して一方を水路として残し、川の流れを変えてトンネル建設地付近を水が流れないようにしたうえで、川底を掘って建設したそうです。また、予讃線の電化に伴う工事でもいろいろな工夫がされました。

難工事を乗り越えて完成した「大明神川トンネル」は、現在、鉄道の上に川があり、その上に一般道、さらにはその上には自動車専用道が走っているという四重層構造となっており全国的にも数少なく、珍しい風景として鉄道マニアなどから注目を集めています。

皆さんも電車に乗って、全国でも珍しい大明神川トンネルを通ってみてはいかがでしょうか。



丹原総合支所

〒791-0592 丹原町池田1733番地1 TEL0898-68-7300 FAX0898-68-4769

「七夕笹飾り今昔」

丹原商店街の七夕笹飾りの歴史は古く、大正時代初期にさかのぼります。当時の記録に「前日より青笹へ五色の短冊を吊るし之に七夕に因（ちな）める種々の歌を書して軒頭に立て、夜は之に紅燈（こうとう）を点（とも）して牽牛・織姫の二星を祭る。殊に大字丹原にては、競うて大なる竹を以てする故夜景頗（すこぶ）る美なり」と記されており、丹原商店街では七夕の頃になると各商店が軒先に笹飾りを立て、通行人の目を楽しませていたようです。

その後時代の流れとともに飾りも華やかになり、昭和53年頃からは地域内外の芸能も行われ、徐々に「まつり」としての形をあらわしてきました。

昭和56年には「第1回丹原七夕夏まつり」として開催されたこのまつりも今回で28回目を迎え、8月5日～7日の

3日間開催されます。

最近では商店街の高齢化や後継者不足によって笹飾りの出展や運営が難しくなっていますが、各種団体の参加・運営の協力を得て実施しています。丹精込めた笹飾りの作成には約2カ月かかるところもあります。

しかしながら、最近では見物の途中で飾りを傷めるなど、心ないいたずらが増えているのも事実です。マナーを守って、夏の夜空を彩る華やかな笹飾りをご覧ください。皆さまのお越しをお待ちしています。



大正時代初期の様子



昭和53年頃の様子

小松総合支所

〒799-1198 小松町新屋敷甲496番地 TEL0898-72-2111 FAX0898-72-4048

篤山の教え（伊予聖人 近藤篤山②）

先月号で伊予聖人・近藤篤山が小松藩の教育に貢献したことをご紹介しましたが、では篤山は昔の小松町でどのように教育にあっていたのでしょうか。

小松温芳図書館に残る「篤山日誌」によると、篤山は藩校「養正館」に月平均で25日以上出勤しており、これは他藩の教授の2倍から3倍の授業日数だったそうです。授業は朝8時から始まって、終わるのが夜になることも多く、授業以外にも藩主への個人授業や、屋敷内にある2つの私塾で領内外の塾生にも教えていました。このように篤山は教育者として並外れた熱意と誠意を持っていました。

篤山の教育精神を表す言葉として「仁・礼・義」があります。世の中を愛し、感謝し、本当に正しいことを行うことを、人として生きる基本としていました。篤山邸にはこ

の「仁・礼・義」について篤山が書いた三幅対（右写真）があり、市の指定文化財にも登録されています。さらに三戒の教え「立志・求己・慎独」のとおり、志を持ち、心中に雑念を起さず、完成された自己をめざすことを人格形成の基本としていました。

このように郷土の教育に尽くした近藤篤山の紹介が、西条市の小学3～4年生の社会科副読本に掲載されており、小松だけでなく市内の小学生も篤山について学んでいます。特に石根小学校では篤山遺愛の椿「篤山椿」を挿し木で育てています。今なお小松町内外の教育に影響を及ぼす篤山は、子どもたちの成長をいつまでも見守っているようです。

